

Africa

「アフリカのことを学ぶ日」 キャンペーンの報告

2013年6月1日から3日に横浜で開催された「第5回アフリカ開発会議（TICAD V）」に併せて、日本ユニセフ協会は、「アフリカのことを学ぶ日」を立ち上げ、日本の子どもたちがアフリカについて学ぶ事を促進しました。気候変動や人口爆発の問題など、多くの難問を抱える現代において、アフリカについて学習する事は国際理解や協力の心を育む力となり、日本の子どもたちの「地球市民」としての自覚を促すこととなります。そうすることで、国際的な視野を持った日本人の育成に繋がるのです。

ユニセフハウスの展示

2013年4月から6月末までの日程で、アフリカの民族衣装や特産品などが、ユニセフハウス1階の展示コーナーに設置され、修学旅行や社会科見学で当協会の展示を学びに来た子どもたちに紹介されました。子どもたちは強い関心を持ってアフリカの展示物を見学していました。



在日タンザニア大使の岸中学校の訪問

駐日タンザニア大使館の協力で、2013年5月16日、サロメ・タダウス・シジャオナ大使がさいたま市立岸中学校を訪問し、3年生252名を対象に講演をしてくださいました。アフリカやタンザニアの状況について、また、タンザニアの教育の現状についても触れ、「タンザニアの学校には、岸中学校のように理科室などの施設はなく、そうした状況で、子どもたちは勉強しています。国語であるスワヒリ語の他に英語を学び、国際社会で活躍する事を夢見ています。世界は一つの村のようなものです。タンザニアの子どもも日本の子どもも同じ村に暮らしているのです。気候変動などの地球が抱える難題を皆で取り組む事が求められているのです。是非こうした気持ちを大切に勉強を続け、地球のみんなと仲間になって下さい。そしてこのすばらしい地球を守って下さい」とお話をさせていただきました。

日本人ユニセフ職員の学校訪問

ユニセフ・ソマリア事務所の教育担当官、吉本華氏は、2013年5月28日に成田市立中台小学校を訪問し、5年生、6年生61名に話をしました。「ソマリアは紛争の影響で治安が悪く、未だにソマリア国内にユニセフ事務所を置く事はできず、隣国のケニアのナイロビに事務所を構え、ソマリアに仕事の度に出張をします。1日でも早く、平和が戻り、ソマリア国内に事務所が開設される事を希望しています」と語りました。



ユニセフ中部・西部アフリカ地域事務所の教育チーム、横関祐見子氏は、2013年5月30日に、船橋市立葛飾小学校の6年生248名に、アフリカ各地の文化や生活、学校、子どもたちの様子を説明しました。質問コーナーでの、「なぜ子どもが学校に行けないのですか」という質問には、「貧しいために鉛筆を買う事ができません。暮らしを支えるためには子どもも仕事をしなくてはならず、学校に行けないのです。皆さんと同じくらいの年齢の子どもが、小学校に通う事ができないのです。これは世界のどの場所であっても起きてはいけません。ユニセフは一人でも多くの子どもを学校に行かせたいと思い、活動をしているのです」と答えました。

